

あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース



妙純寺の梅（撮影 阿部会員）

令和3年 3月号 Vol. 203
(2021年)

発行：令和3年3月25日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 阿部 啓冊



会員投稿

《アーネスト・サトウと厚木、清川》

阿部啓冊

アーネスト・サトウは、日本語通訳としてイギリス公使パークスとともに来日した文久2（1862）年から約十七年間を日本で過ごし、いったん離日した後、明治28（1895）年から5年、英国公使として再来日しています。



アーネスト・サトウ

この間、英国を出発した18歳から86歳で死亡する2年前まで日記を書き続けており、その一部については1998年から2001年の三年間にわたり朝日新聞が「旅立ち—遠い崖 アーネスト・サトウ日記抄」として連載していました。

日記には明治5年と明治6年に厚木の記述がありますので、今回は明治5（1872）年1月の旅行から厚木周辺の様子を追ってみました。

明治5年1月17日、サトウは英国一等書記官アダムスとともに新宿を出発。甲州街道の小仏峠を越えて藤野で一泊したのち、吉田に出て富士嶽神社（現在の北口本宮富士浅間神社）に向かっています。

この旅行の目的は日本の神道について知ること、日記からも仏教との違いや巡礼者の行動など神道の知識を収集することに熱心であった様子が伺えます。

富士山周辺での調査を終えた一行は、23日に道志みちから鳥屋を経由して夕刻に外国人の宿泊所と指定されていた宮ヶ瀬の熊野神社に到着しています。日記には代々地元で僧侶を務めてきた人物が大山で神道を学び宮司となり檀家の皆さんとともに信仰を変えたいきさつや、木の薄皮から子供たちが折箱を作り上げていく様子など宮ヶ瀬の人たちの暮らしぶりが書かれています。



宮ヶ瀬 熊野神社



熊野神社 宮の里分社

平成に入り宮ヶ瀬ダムが建設されたとき、一行が宿泊した神社は宮ヶ瀬湖畔に移築され、住み慣れた土地を離れた皆さんが暮らす厚木市宮の里には分社が祭られています。

宮ヶ瀬で二泊した一行は25日の朝、いよいよ厚木に向かって出発します。川に沿いながらジグザグの山道を登ると平坦な土地があり、ここからは海が弓なりに広がり左手には江の島が見えたようです。日記には煤ヶ谷に降りる手前と書かれています。

現在、宮ヶ瀬から煤ヶ谷に下る「みやがせみち」から煤ヶ谷の集落を眺めると茶畑が広



みやがせみちと煤ヶ谷
(正面は飯山方面)



がっており、サトウの眺めた風景とは様変わりしています。村の主力産業であった林業に代わるものとして昭和40年代にお茶の生産を拡大したということで、摘み取られた茶葉は村内にあるお茶工場「チャピュア清川」で加工・出荷されており、毎年5月に行われる茶摘み体験会には村外からも多くの方が参加しています。

一行は煤ヶ谷の八幡神社を通過しています。「別所の湯」の入り口にある八幡神社は明治初期には宮ヶ瀬の行楽に訪れる外国人の休憩地として

指定されていました。サトウ自身もこのときより6年ほど前にジャパントイムズのオーナーであったリカービーとともに立ち寄っていたようです。

神社の入り口や境内には文化・天保時代からの石塔が多く残されており、この神社が煤ヶ谷の人たちと一緒に過ごしてきた長い時間を感じることができます。

煤ヶ谷には二体の龍にまつわる伝説があり「青龍祭」というお祭りが催されています。緑小学校の子供たちが半年かけて造る青龍が集落を練り歩いた後、炎に包まれた龍が大勢の人に見送られて天に昇っていくのも神社脇の広場からです。



日記には、ここから飯山までは平たんな道であったと書かれています。アダムズは徒歩、サトウは駕籠に乗り神社を出発。大山を眺めながら通過した集落の耕地には桑の木が植えられ、畑の所有者の名前と農地の等級を示す杭が立てられていたと書かれています。

1860年代のヨーロッパでは蚕の伝染病である微粒子病が蔓延し養蚕業が壊滅状態になっていました。絹を求めるヨーロッパの諸国に対し絹を輸出することは日本の産業にとって大きな柱となっていたことを物語る風景です。最盛期には1500軒を超えたという厚木の養蚕農家ですが、昭和40年代には500軒に減少、平成23年に国の補助金制度が打ち切られたのをきっかけに最後まで残っていた6軒の農家も繭の生産を止めてしまったようです。

昭憲皇后(明治天皇妃)が宮中で養蚕をはじめられたのは明治4年のことでした。それ以来、皇居で育てられている日本古来種の蚕「小石丸」は小粒で生産性が悪く、数年前には国内でも皇室のみが育てているこの品種の養蚕を中止することが検討されたそうです。しかし、美智子妃の昭憲皇后以来代々の皇后が育て続けてきた品種を守りたいと強いご希望により養蚕が続けられていました。近年になり正倉院宝物の修理復元作業を始めたとき修復にはどうしてもこの日本古来種である「小石丸」の作る絹糸が必要であることが判明し、皇室から絹糸を譲り受けて無事に修復を進めることができたそうです。昨年7月に「御養蚕納の儀」が行われ明治から続けられてきた皇室による養蚕が、美智子妃から雅子妃に引き継がれたのはまだ記憶に新しいことです。



さて、サトウ一行に話を戻します。厚木に到着したのは午後一時のことでした。厚木では、休息のため万年屋敬兵衛*1の旅籠に案内されています。「きれいで新しい旅籠」と書かれている万年屋については渡辺華山が宿泊した旅籠としてご存じと思いますが、残念ながら見晴らしがよくなかったようで休憩する旅籠を近くの古久屋に変更したようです。



*1:サトウの日記では厚木の旅籠万年屋の主人の名前は敬兵衛となっています。渡辺華山の游相日記に出てくる旅籠万年屋の主人は平兵衛です。華山が厚木を訪れた天保2(1831)年からサトウが訪れた明治5(1872)年までは41年。その間に旅籠万年屋の主人の代替わりがあったのか、それとも名前の聞き間違いがあったのか。さて、皆さんはどちらだと思われますか。

日記には部屋の裏手の階段を上がると大山の風景が見られ、その左手には「地獄」と二子山を眺めることができたと書かれています。

「地獄」というのは大涌谷の旧称で、この当時は「大地獄」と呼ばれていました。現在でもときおり厚木から大涌谷のあがる噴煙を眺めることができますので、おそらく「地獄を眺めた」とは「大涌谷の噴煙が見えた」という意味ではないかと思います。

ちなみに明治6年までは「大涌谷・小涌谷」を「大地獄・小地獄」と呼んでいましたが、同年8月に行われた明治天皇・昭憲皇后の行幸があり、これに先立ち名称を変更したといわれています。地元の方とお話していると会話に「地獄」の呼び方が入り混じるのは比較的最近の改称であることの名残ではないでしょうか。

厚木についてサトウは「活気のある栄えた街で近年になってものが豊かで立派に成長したところ」と記しています。約二時間の休憩ののち、相模川を舟で渡り国分から大塚へと向かい東京への帰途についています。桑の木が植えられている耕地の中を抜け夕方に鶴間に到着。翌朝、長津田から溝の口、二子を経由して目黒に到着したと記されています。

日記は当時外国人向けに発行されていた「Japan Weekly Mail」で連載されていた日本国内紹介記事の下敷きとなり、その後来日した外国人にとって日本旅行の貴重なガイドブックとして利用され、その著書



中央部・北部旅行案内(第2版)

「中央部・北部旅行案内」の中では国内の印刷物としては初めて「日本のアルプス」という表現を使い日本アルプスの呼び名の定着に一役買っています。

また、サトウは欧米人による日本研究団体「日本アジア協会」(創立 1872 年~現在)の書記となり日本文化の研究者としても活動し、明治5年の調査などを基に「古神道の復活」など約20編の論文を発表しています。

主な参考文献・資料

日本旅行日記1・2(アーネスト・サトウ 庄田元男訳 平凡社東洋文庫)

日本アジア協会と協会の紀要について(秋山勇造 神奈川大学人文研究 Vol152 2004)

皇后陛下のご養蚕(政府インターネットテレビ 平成26年2月14日公開)

清川の伝承(清川村教育委員会)

最近の活動

日 時	場 所	内 容	参 加 者
2月の行事及び3月役員会・定例会は中止となりました			

令和3年3月・4月 行事予定

	日 時	行 事	会場・場所	内 容	申 込 先
3 月	3月の役員会・定例会・勉強会は中止となりました。				
	25日(木) 14:00~16:00	厚木市観光推進委員会	厚木市役所	—————	—————
	25日(木) 13:15~16:30	ガイド養成講座	アミューあつぎ	厚木市の観光他	サークルスクエア
	26日(金) 13:30~16:30		保健福祉 センター	ボランティア 活動について	
	27日(土) 13:30~16:30		保健福祉 センター	野外学習 座 談 会	
28日(土) 09:00~16:00	冬季入込み調査	市内5カ所	10名	サークルスクエア	
4 月	3日(土) 09:00~12:00	役 員 会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア
	10日(土) 10:00~12:00	定 例 会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア
	24日(土) 13:00~15:00	通 常 総 会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア

お願い 行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。

提出期限は定例会の1週間前（編集会議と印刷のため）

編 集 後 記

巻頭の写真は妙純寺の梅の花です。今年も境内に梅が咲き誇っていましたので見学に行かれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

先日、友人からピンゴゲームのカードが送られてきました。毎週数字が二つ発表され、先にあがった人から景品がもらえるというもので、離れていても意外とみんなで楽しめるものでした。

あるところでは折り鶴を募集しました。私も300羽折りましたが、最終的に集まったのは約20万羽ということで驚いてしまいました。少し落ち着いたら見に行こうと思っています。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子